

報道関係各位

東京都庭園美術館では、2017年1月14日（土）から4月9日（日）の期間中、「並河靖之七宝展」を開催いたします。本展は、明治期の七宝家・並河靖之の生涯と、最初期から晩年に至るまでの七宝作品を一堂に会して紹介する、初めての大規模な回顧展となります。

並河靖之 七宝

明治七宝の誘惑—透明な黒の感性



Namikawa Yasuyuki and Japanese Cloisonné
— The Allure of Meiji Cloisonné: The Aesthetic of Translucent Black

2017 1/14 sat. — 4/9 sun.

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館 毎日新聞社
後援：フリテイッシュ・カウンシル 協力：日本航空 協賛：岡村印刷工業 年間協賛：戸田建設
開館時間：10時—18時（入館は17時30分まで）
※3月24日、25日、26日、4月1日、2日、7日、8日、9日は在館期間20時まで（入館は19時30分まで）
休館日：第2、第4水曜日（1月25日、2月8日、2月22日、3月8日、3月22日）

藤草花文花瓶 明治後期 並河靖之七宝念箱



■ 展覧会概要

展覧会タイトル 並河靖之七宝展
サブタイトル 明治七宝の誘惑—透明な黒の感性
英文タイトル Namikawa Yasuyuki and Japanese Cloisonné

会期 2017年1月14日（土）-4月9日（日）
会場 東京都庭園美術館 本館・新館ギャラリー 1
開館時間 10:00-18:00（入館は17:30まで）

入館料 一般 1,100（880）円
大学生（専修・各種専門学校含む） 880（700）円
中学生・高校生および65歳以上 550（440）円

- *（ ）内は前売りおよび20名以上の団体料金。
- *小学生以下および都内在住在学の中学生は無料。
- *身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者一名は無料。
- *教育活動として教師が引率する都内の小中・高校生および教師は無料（事前申請が必要）。
- *第3水曜日（シルバーデー）は65歳以上の方は無料。
- *前売り券e+（イープラス）にてオンライン販売いたします。 <http://eplus.jp>

主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館、毎日新聞社
後援 ブリテイツシュ・カウンシル
協力 日本航空
協賛 岡村印刷工業
年間協賛 戸田建設株式会社

《本展は巡回いたします》

東京展：東京都庭園美術館（2017年1月14日-4月9日）
兵庫展：伊丹市立美術館（2017年9月9日-10月22日）
三重展：パラミタミュージアム（2017年10月28日-12月25日）

《桜の時期に夜間開館を実施します》

3月24日（金）、3月25日（土）、3月26日（日）、
4月1日（土）、4月2日（日）、4月7日（金）、4月8日（土）、
4月9日（日）は、20:00まで開館します。（入館は19:30まで）

《ドレスコード割引「蝶」》

花瓶やお皿に登場する個性的な蝶たち。
蝶のモチーフを身に着けてご来館の方は100円引きになります。
*他の割引と併用はできません。*チケット購入窓口で割引をお申し出ください。



明治時代、輸出用美術工芸として人気を博した七宝。並河靖之（なみかわ・やすゆき、1845-1927）は、その中でも繊細な有線七宝により頂点を極めた七宝家です。没後90年を記念する本展は、初期から晩年までの作品を一堂に会する、初めての回顧展です。

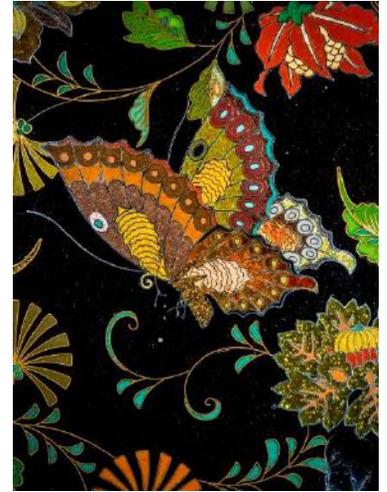
細密な植線、豊かな色彩、四季折々の花鳥風月、そして研ぎ澄まされた透明な黒い釉薬。類まれな技術のみに留まらず、洗練された感性に基づき制作された七宝は、100年以上の時を経てなお光を放ち、人々を魅了します。本展では、国内外の七宝作品に加え、下絵等の関連資料を通して、その全容を明らかにします。

■ 本展の見どころ

1. 透明な黒の感性

日本で使われた七宝の釉薬（ゆうやく）は、明治の初めまでは濁りのある不透明なものが一般的で、色数も限られていました。釉薬とは焼いた時に中に色素として含まれる金属が化学変化し色が生まれてくるもので、色のコントロールが非常に難しいのですが、並河は研究を重ね、透明釉薬を含めた様々な色の釉薬を開発します。それにより同じ花でも光の当たり方や咲き具合によって異なる微妙な色の違いを表現したり、グラデーションをつけたりすることが可能になりました。

さらに並河作品の大きな特徴といえば、「黒色透明釉薬」です。豊かな色彩あふれる花鳥のモチーフをぐっと引き締めるのは、地（背景）の黒です。この黒が透明な黒になることで、空気感や奥行きが生まれています。



ガラス質に酸化鉄や雲母片などの金属を混ぜ込むことで、褐色の地に金砂のようなきらきらとした輝きを作り出す、「茶金石」の技法を用いた例。

2. 明治七宝の誘惑 伝統技術ではなかった！

七宝とは、金属（金や銀、銅、青銅など）の下地の上に釉薬をのせ焼くことで美しい彩色を施す金属工芸の一種です。古くは紀元前の中近東にさかのぼることができ、日本でも奈良時代にすでにその技術がみられます。桃山時代から江戸時代にかけては、主に建物の釘隠しや襖の引き手、刀の鐔などに用いられましたが、閉鎖的な職人集団の中だけで伝承し、ほぼ途絶えていました。

明治時代の七宝家たちは、この江戸時代までの伝統的な技ではなく、江戸時代末期に生まれた尾張七宝の技術を基にし、お雇い外国人のワグネルが開発した釉薬を使って、近代的な国家の新しい技術、新しい産業に取り組むベンチャー企業として、七宝を作り出したのです。この中で抜群の技術とセンスをもって台頭してきたのが、並河靖之でした。

並河は弟子をとったり世襲したりということをしなかったため、自身が引退した後は工房を閉めてしまいます。また、大正期に入ると輸出工芸としての七宝業全体が衰退し、こうした技巧を凝らした工芸品があまり作られなくなったということもあり、並河の作品の中には、今ではどのように作ったのか分からず再現不能な技もたくさんあるのです。まさに一代限りのロストテクノロジーとなっています。



京都の武士の家系に生まれた並河靖之。親王家の侍従として勤める傍ら七宝の研究をはじめ、後に七宝に専念したという異色の経歴の持ち主。

■ 本展の見どころ

3. 「並河靖之」に焦点をあてた初めての展覧会

近年、明治工芸への関心が国内外で次第に高まっており、展覧会なども多く開かれています。明治時代の工芸品は、輸出による外貨獲得のため、そして日本という国の美意識と技術力の高さを示すために盛んに作られたものです。分かりやすいモチーフで技巧を凝らした装飾的なものが多く、見ていて楽しいものが多いのですが、どうしても「日本の技術力」といった面だけに注目されてしまいがちです。

しかし技術は技術だけで生まれてくるわけではありません。作家の美意識や感性、表現したいことがあって初めて、生み出されるものなのです。これまで明治の工芸家たちのうち、一工房や個人に焦点をあてた展覧会というのはあまり開催されていませんでしたが（例外：真葛焼の宮川香山など）、今回は七宝の並河靖之にフォーカスすることで、明治工芸の技術だけではなく美意識を提示したいと思います。公立の美術館としては初めての並河靖之回顧展となります。

作品の9割が輸出用に作られたため、日本国内で見ることのできる作品はそれほど多くありませんが、本展では並河靖之七宝記念館、清水三年坂美術館、三の丸尚蔵館、東京国立博物館などにご出品いただくほか、イギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館（Victoria and Albert Museum）からの作品も展示いたします。その他、下絵画工・中原哲泉（なかはらてっせん）による下絵など資料約40点も含め、並河作品の魅力を立体的に紹介します。



出品協力先：

三の丸尚蔵館、東京国立博物館、明治神宮、泉涌寺、清水三年坂美術館、並河靖之七宝記念館、V&A他。 [予定]

出品点数：約130点（七宝作品約90点／下絵等資料約40点）

七宝とは？

「七宝」または「七宝焼き」と呼ばれる、金属工芸技法のひとつ。金や銀、銅や青銅などの素地の上に釉薬をおいて焼き、融けた釉薬によるガラスのような質感の彩色を施すものです。明治期の七宝には大きく分けて、「有線七宝」と「無線七宝」の二種類の技法があり、並河靖之が制作しているのは有線七宝。

有線七宝とは？

素地の上に銀を細いテープ状にしたものを立てて輪郭を描き、その中に釉薬(ゆうやく：ガラス質に顔料となる金属を加えペースト状にしたもの。焼くと金属の化学変化で色が変化する)を流し込んで焼成するものをいいます。

ちなみに・・・

金属による輪郭を描かずに、釉薬だけで模様を描く「無線七宝」という技術もあります。

並河の活躍した明治期には、この無線七宝で一世を風靡した濤川惣助(なみかわそうすけ、1847-1910)という七宝家もあり、「二人のナミカワ」と並び賞されていました。戦前の美術家・工芸家の顕彰制度であった「皇室技芸員」に七宝分野で任命されたのは、この二人のナミカワだけでした。

銀線(素地の上にテープ状の銀を立てて作った輪郭線)の間隔、0.5ミリ以下！

花びらの色を良く見ると、グラデーションになっている！

**釉薬の色数が多い！
同じ葉っぱでも、良く見ると微妙に色が違う！**

この作品は模様が全面を覆っていますが、円熟期には地の部分(この部分に黒色透明釉薬が使われることが多い)が広がってきて、効果的に画面を引き締めるようになります。実は、釉薬はペースト状で広い面積に使うと垂れてきてしまうため、地を広くするというのは至難の技なのです。

また晩年には銀線の厚み(線の肥瘦)を変え、水墨画のような表現にも取り組むようになりました。

並河の役割

並河靖之の制作スタイルは、自分でデザインをして手を動かして実際に制作するという、現在の私達が想像する「工芸家」とは少し違いました。下絵を描く職人、植線する職人、釉薬を調合する職人などがいて、並河はいわばディレクターとして並河の目で見るとしたもののだけを世に送り出す立場でした。そして、七宝を焼成するための窯に入れる重要な工程「窯入れ」だけは、必ず並河本人が手がけていたといえます。

原寸大



■広報用画像

下記のほか各種広報用画像をご用意しています。高解像度データダウンロード専用URLをご案内いたしますので、ご希望の方は press@teien-art-museum.ne.jp までご連絡願います。

※ご使用時の注意とお願い

- ・写真使用の際はキャプション・クレジットの掲載を必ずお願いいたします。
- ・トリミング、文字載せは原則不可。二次使用は禁止いたします。
- ・使用の際は事実確認のため、記事校正を必ずさせていただきます。
- ・掲載紙又は、掲載記事を担当者までお送り願います。



- 1 並河靖之 藤草花文花瓶 並河靖之七宝記念館蔵 2 1のディテール
 3 並河靖之 花鳥図飾壺 清水三年坂美術館蔵 4 並河靖之 菊紋付蝶松唐草模様花瓶一对 泉涌寺蔵
 5 並河靖之 菊唐草文細首小花瓶 並河靖之七宝記念館蔵 6 並河靖之 桜牡丹菊蝶文小花瓶 並河靖之七宝記念館蔵
 7 並河工房 七宝下図「桜花蝶文皿」 並河靖之七宝記念館蔵

会場情報

東京都庭園美術館 | 東京都港区白金台5-21-9
 [目黒駅] JR山手線東口/東急目黒線正面口より徒歩7分
 [白金台駅] 都営三田線/東京メトロ南北線1番出口より徒歩6分
 TEL. 03-3443-0201 FAX. 03-3443-3228
www.teien-art-museum.ne.jp

お問い合わせ先
 東京都庭園美術館 広報担当
 板谷、浜崎
 TEL. 03-3443-0201
 Mail. press@teien-art-museum.ne.jp